



1月号 平成31年1月7日 横浜市立井土ヶ谷小学校

# 学校だより

～ともに輝き ひびき合う子～

## 他者と協働して幸福な人生を切り拓くために

校長 堤 達俊

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。例年より長い冬休みとなりましたが、年末・年始の行事等もあり、子どもたちにとっては、あっという間だったかもしれません。

さて、先月15日に、本校で生活科・理科授業研究発表会を開催いたしました。今年は、研究主題を「つながりを生かして学びを深める子ども」と設定し、学び合いを通して子どもの資質・能力を育成しようと研究を進めてきました。そのため、各クラスでは、子どもたちが教室の掲示物を見て、「あの時勉強したことが使えるね。」とつぶやいたり、友達と意見を交換したりして、「なるほど。そういう考え方もできるね。」などと互いを認め合ったりする姿が見られるようになってきました。

当日、授業を参観してくださった方々からは、以下のような感想が寄せられました。

- ・前時から本時、次時へのつながりだけでなく、友達とのつながり、時間的・空間的なつながり等、様々あるのだと学びました。また、「どうして？」と考えることで、科学の種が育まれているのだと感じました。
- ・子どもたちが考えをまとめ始めた瞬間、教室が静まり返り、とても集中している姿が見られました。表現を大切にされてきた研究の積み重ねを感じました。
- ・自然事象や自分とじっくり向き合う子どもの姿をたくさん見ることができました。子ども同士のつながり、対話、やりとり等の姿をもう少したくさん見たかったです。

皆様方からのお声をまとめると、子どもたちが、自分なりの思いをもって問題を追究したり表現したりしている姿が良い。友達とそれを伝え合い、学び合う姿をさらに進める必要がある、ということになると思います。今回改訂された新学習指導要領でも、複雑で予測困難な時代を、児童が社会に主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら幸福な人生を切り拓く力を育てていくことが重視されています。今後も、保護者、地域の皆様とともに、子どもたち自身が、友達に伝えことの楽しさを感じ、友達の考えを聞き、新たな考えを生み出すよさに気づき、他者と協働できる場をより一層つくっていきます。ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いたします。

### 井土ヶ谷の自然 ～冬ならではの昆虫観察～



学校の近隣にある雑木林で、手すりを一本一本舐めるようにして観察してみました。目的は、フユシャク（冬尺）探しです。フユシャクとは、冬になると成虫となって活動をするおもしろい蛾です。粘り強く探していると、いました、いました。1cmほどのクロスジフユエダシャクのメスです。メスは、羽が退化して小さくなり、飛ぶことができません。その代わりに、木に登ってフェロモンを空中に発散して、オス呼び寄せます。手すりだとフユシャクが上に登ることができず、見つけやすいのです。皆さんも、冬ならではの昆虫観察を始めてみませんか。